

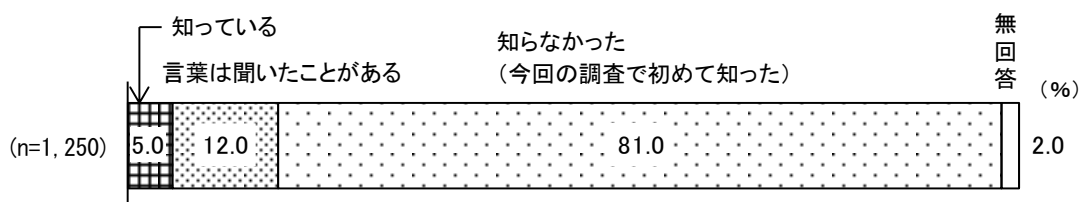
## 第5章 ともに生きる社会かながわ【問17～問22】

### 1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度【問17】

#### 【全体の状況】

ともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が81.0%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が12.0%であった。（図表5-1-1）

図表5-1-1 ともに生きる社会かながわ憲章の認知度



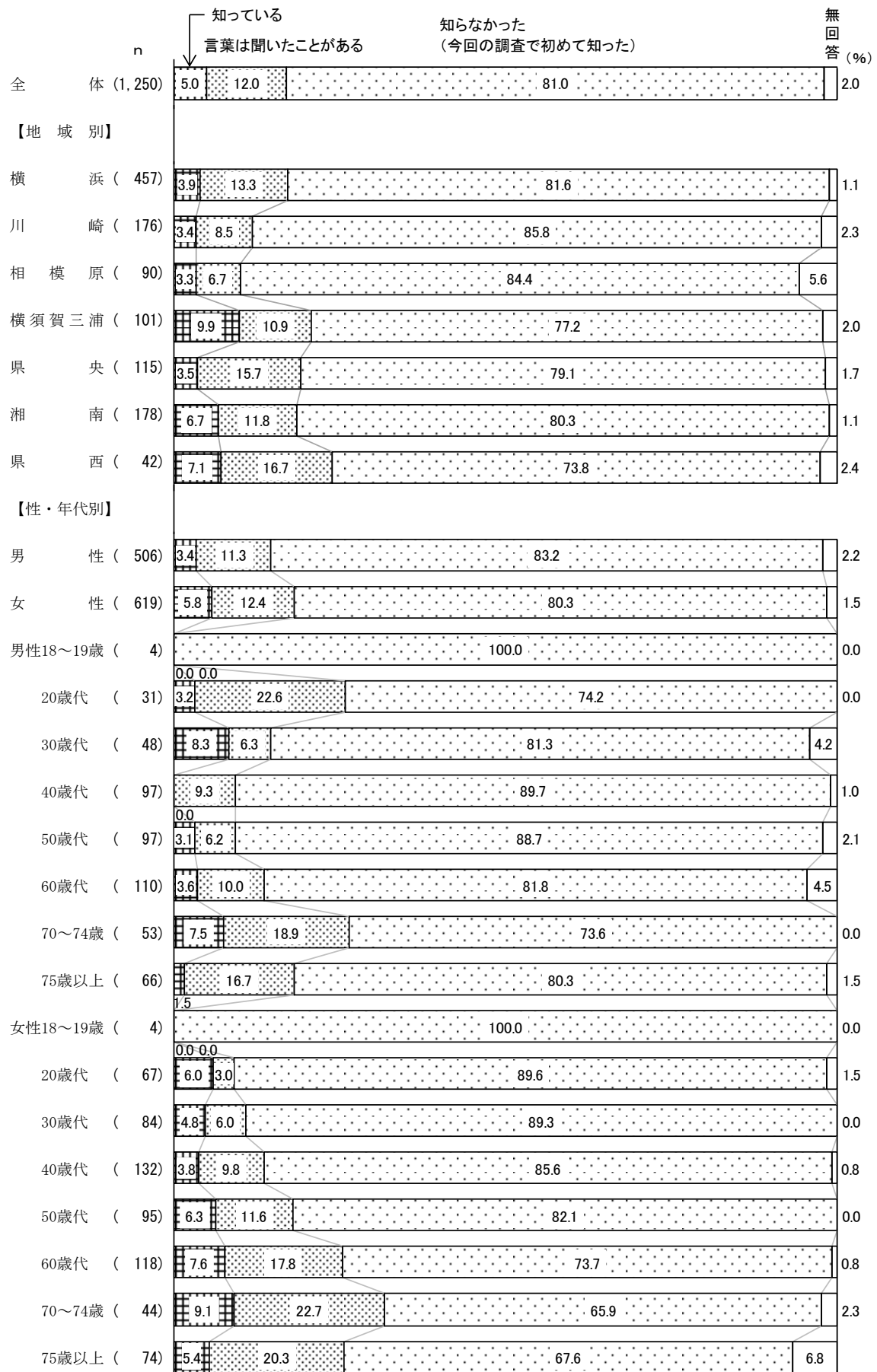
#### 【地域別の状況】

地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、川崎が85.8%で最も多かった。また、「言葉は聞いたことがある」は、県西が16.7%で最も多く、次いで県央が15.7%であった。（図表5-1-2）

#### 【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男性の40歳代が89.7%で最も多く、女性の20歳代（89.6%）・30歳代（89.3%）が続いた。また、「言葉は聞いたことがある」は、女性の70～74歳（22.7%）と男性の20歳代（22.6%）がともに2割台であった。（図表5-1-2）

図表5-1-2 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度—地域別、性・年代別



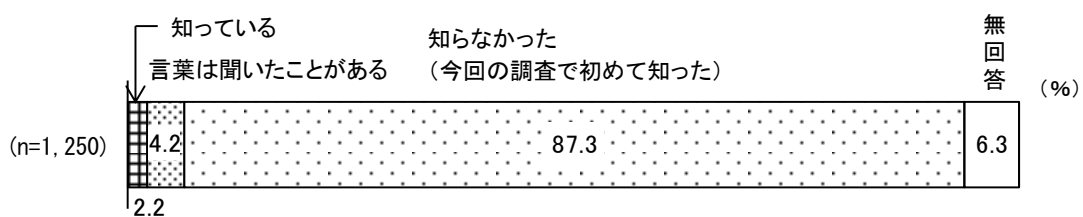
## 2 とともに生きる社会かながわ推進週間の認知度【問18】

### 【全体の状況】

とともに生きる社会かながわ推進週間を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、87.3%となった。

一方、「知っている」は、2.2%であった。（図表5-2-1）

図表5-2-1 とともに生きる社会かながわ推進週間の認知度



### 【地域別の状況】

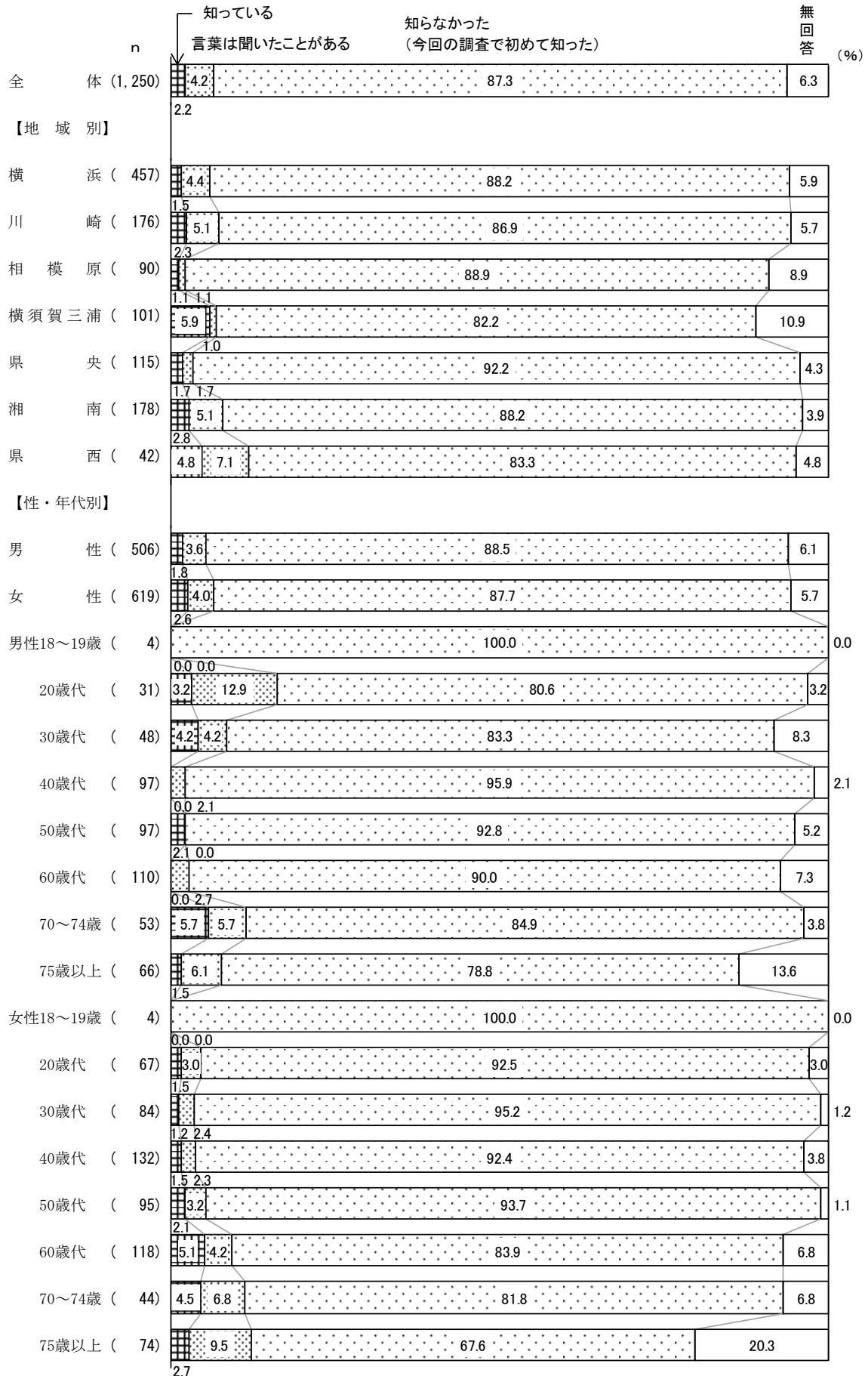
地域別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、県央が92.2%で最も多く、県央を除く6地域（82.2%～88.9%）でそれぞれ8割を超えた。（図表5-2-2）

### 【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、男性の40歳代が95.9%で最も多かった。

一方、「知っている」は、すべての性・年代（0.0%～5.7%）で1割に満たなかった。（図表5-2-2）

図表5-2-2 とともに生きる社会かながわ推進週間の認知度—地域別、性・年代別

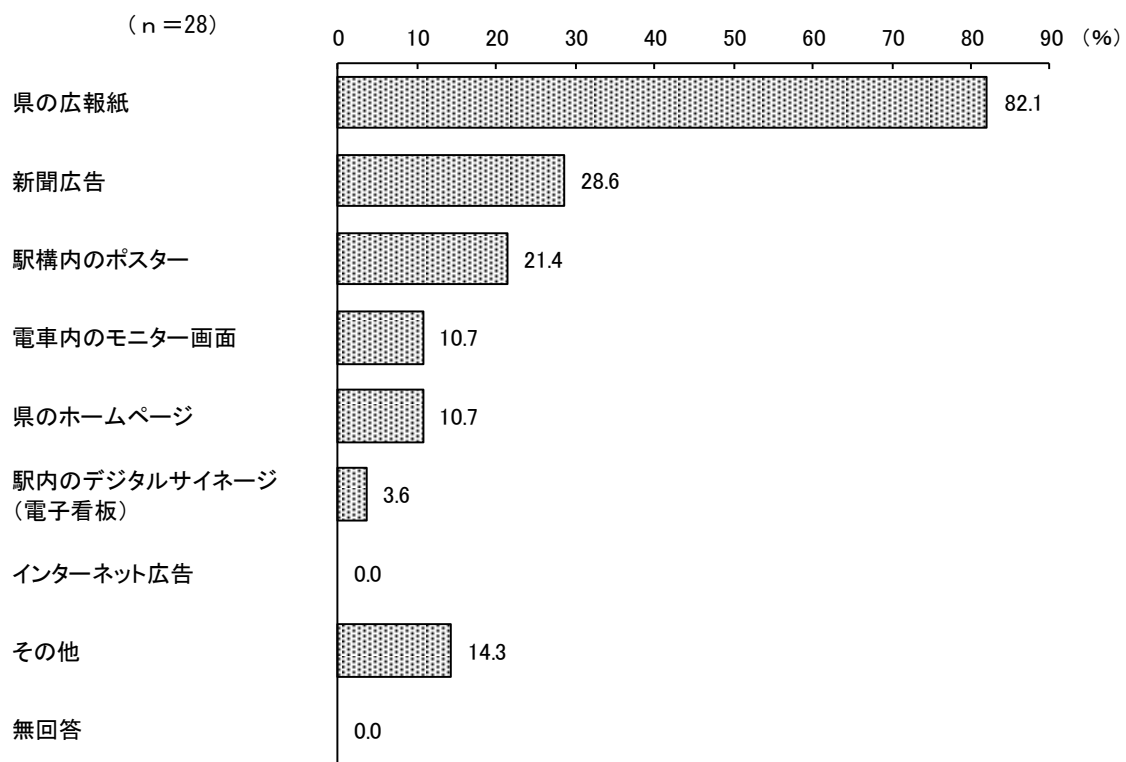


### 3 とともに生きる社会かながわ推進週間を知った広報の方法【問18-1】

#### 【全体の状況】

とともに生きる社会かながわ推進週間の認知度(問18)で、とともに生きる社会かながわ推進週間を「知っている」と回答した28人に何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県の広報紙」が82.1%で最も多く、次いで「新聞広告」が28.6%であった。(図表5-3-1)

図表5-3-1 とともに生きる社会かながわ推進週間を知った広報の方法(複数回答)



図表5-3-2 とともに生きる社会かながわ推進週間を知った広報の方法（複数回答）

－地域別、性・年代別

（サンプル数が少ないため参考）

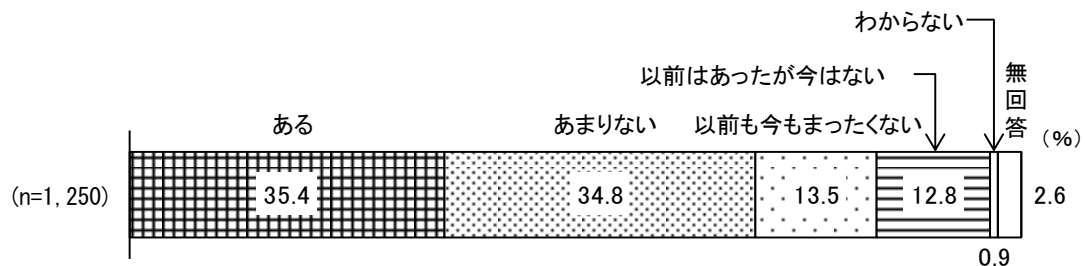
（％）										
	n	県の 広報紙	新聞 広告	駅 構内の ポスター	電 車内の モニター 画面	県 のホーム ページ	駅 内のデジ タルサイ ネージ （電子 看板）	イン ターネッ ト広告	そ の他	無 回 答
全 体	28	82.1	28.6	21.4	10.7	10.7	3.6	-	14.3	-
【地 域 別】										
横 浜	7	85.7	28.6	14.3	14.3	14.3	-	-	-	-
川 崎	4	100.0	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-
相 模 原	1	100.0	100.0	-	-	100.0	-	-	100.0	-
横 須 賀 三 浦	6	66.7	16.7	33.3	16.7	-	16.7	-	-	-
県 央	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
湘 南	5	60.0	60.0	20.0	-	-	-	-	20.0	-
県 西	2	100.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-
【性・年代別】										
男 性	9	77.8	33.3	11.1	11.1	33.3	-	-	33.3	-
女 性	16	81.3	31.3	25.0	12.5	-	6.3	-	6.3	-
男性18～19歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	1	-	-	100.0	100.0	100.0	-	-	-	-
30歳代	2	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
40歳代	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50歳代	2	100.0	50.0	-	-	100.0	-	-	50.0	-
60歳代	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
70～74歳	3	100.0	33.3	-	-	-	-	-	33.3	-
75歳以上	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
女性18～19歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
30歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
40歳代	2	100.0	-	-	50.0	-	-	-	-	-
50歳代	2	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
60歳代	6	66.7	16.7	50.0	16.7	-	16.7	-	16.7	-
70～74歳	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
75歳以上	2	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-

#### 4 身近で障がい者と接する機会【問19】

##### 【全体の状況】

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「ある」(35.4%)と「あまりない」(34.8%)がともに3割台であった。(図表5-4-1)

図表5-4-1 身近で障がい者と接する機会



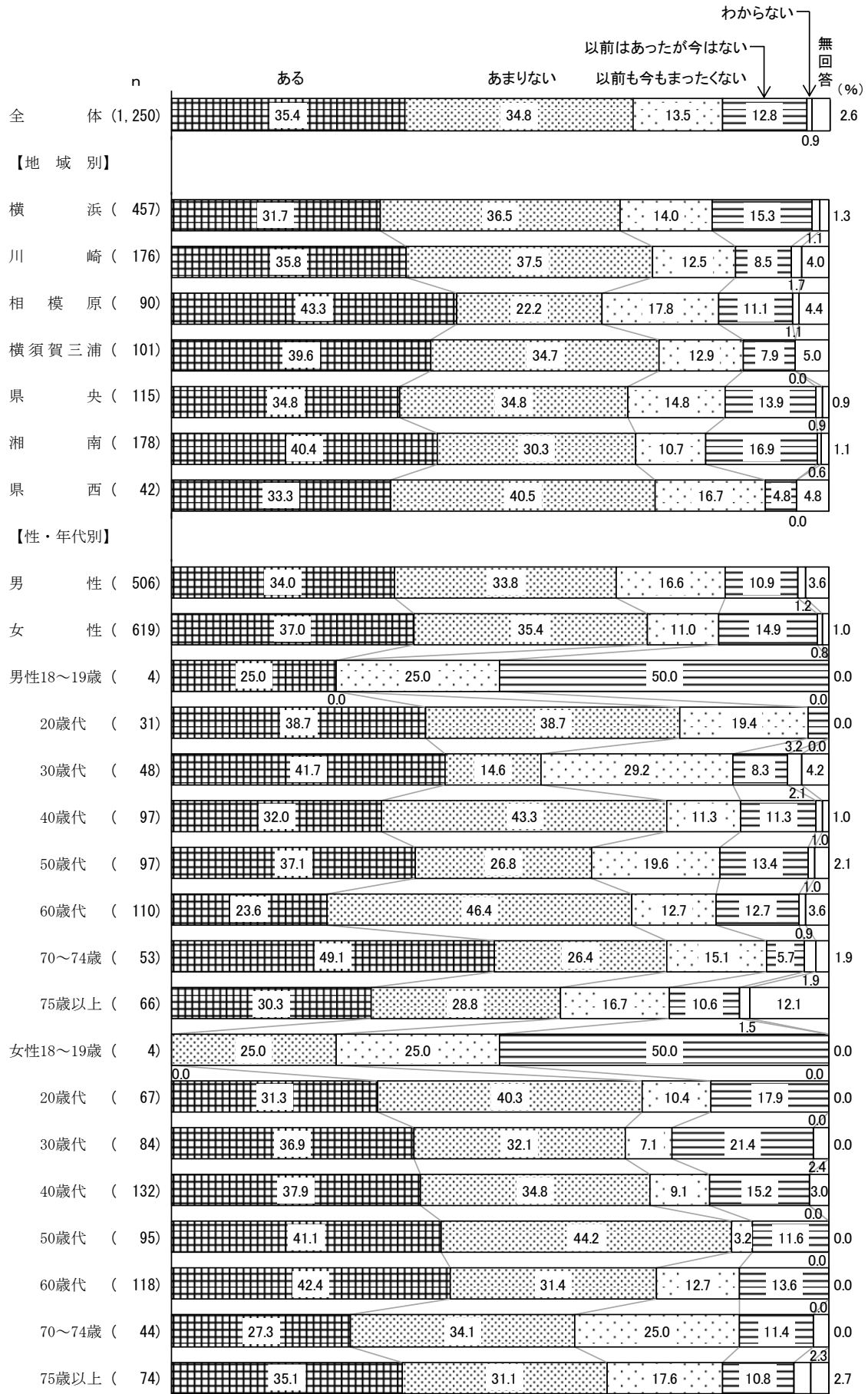
##### 【地域別の状況】

地域別にみると、「ある」は、相模原(43.3%)と湘南(40.4%)がともに4割を超えた。また、「あまりない」は、県西が40.5%で最も多かった。(図表5-4-2)

##### 【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「ある」は、男性の70~74歳が49.1%で最も多かった。また、「あまりない」は、男性の60歳代が46.4%で最も多く、次いで女性の50歳代が44.2%であった。(図表5-4-2)

図表5-4-2 身近で障がい者と接する機会—地域別、性・年代別





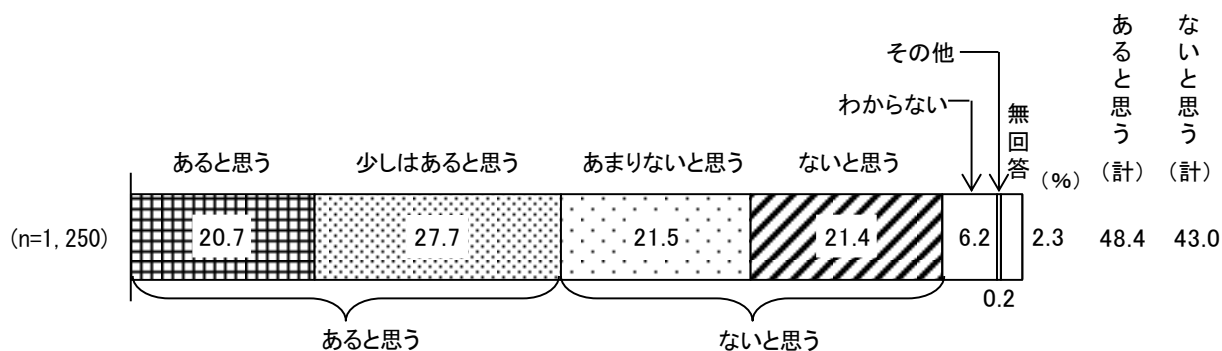
## 5 障がい者への差別・偏見の有無【問20】

### 【全体の状況】

障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(20.7%)と「少しはあると思う」(27.7%)を合わせた《あると思う》は48.4%であった。

一方、「ないと思う」(21.4%)と「あまりないと思う」(21.5%)を合わせた《ないと思う》は43.0%であった。(図表5-5-1)

図表5-5-1 障がい者への差別・偏見の有無



### 【地域別の状況】

地域別にみると、《あると思う》は、横須賀三浦(53.5%)、川崎(52.3%)、県西(50.0%)がそれぞれ5割以上となった。

一方、《ないと思う》は、湘南が50.0%で最も多かった。(図表5-5-2)

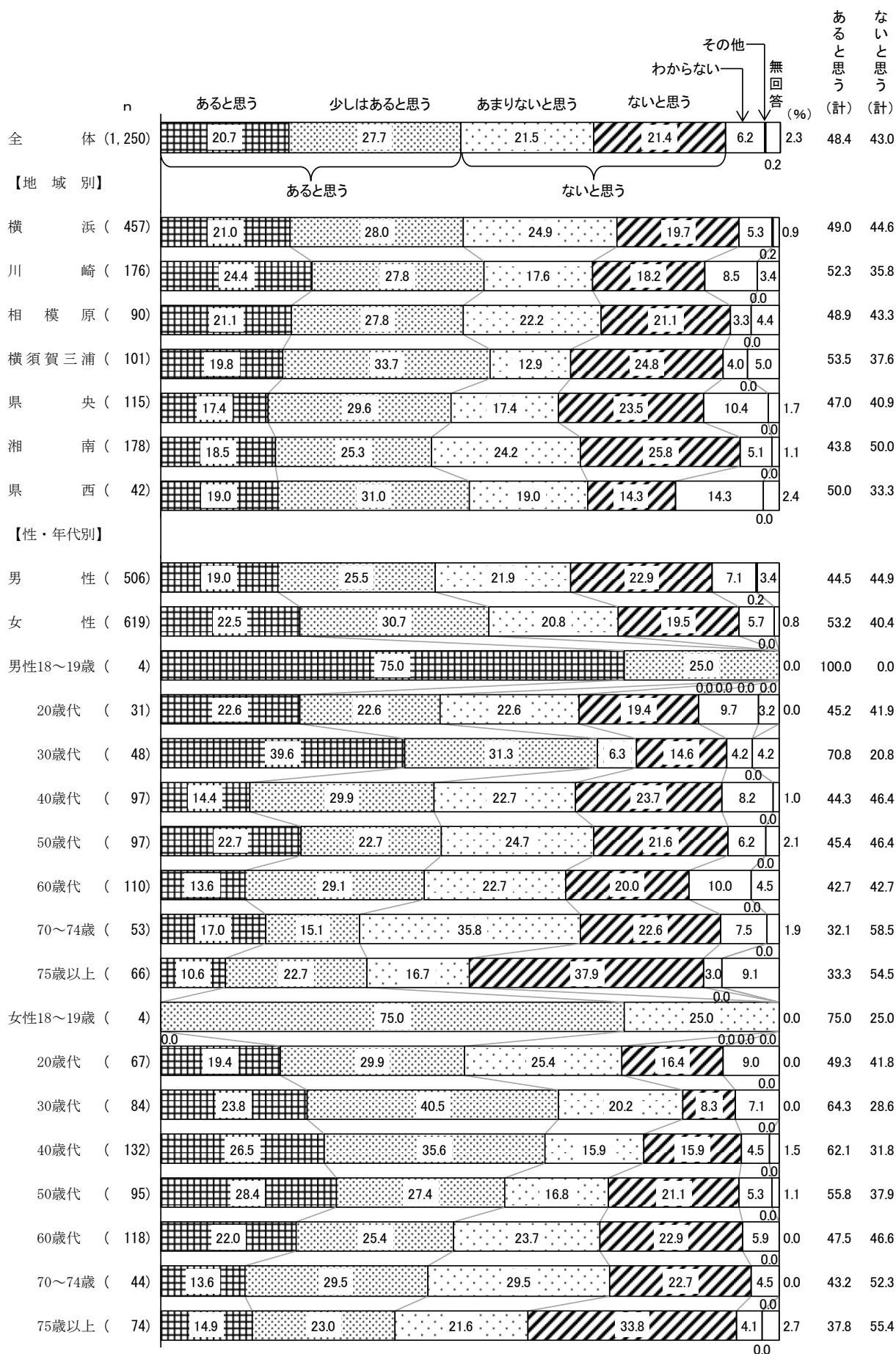
### 【性・年代別の状況】

性別にみると、《あると思う》は、女性(53.2%)が男性(44.5%)を8.7ポイント上回った。

性・年代別にみると、《あると思う》は、サンプル数の少ない男女の18~19歳を除くと、男性の30歳代が70.8%で最も多く、女性の30歳代(64.3%)・40歳代(62.1%)が6割台で続いた。

一方、《ないと思う》は、男性の70~74歳が58.5%で最も多かった。(図表5-5-2)

図表5-5-2 障がい者への差別・偏見の有無—地域別、性・年代別



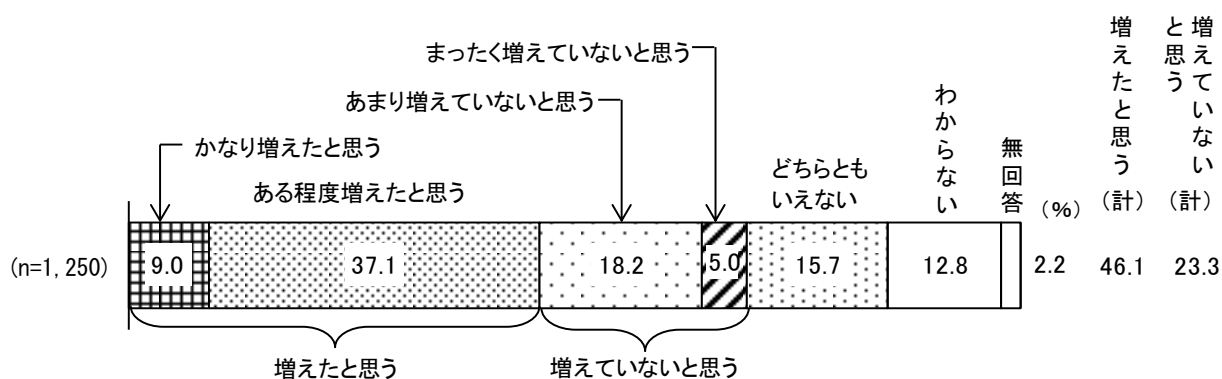
## 6 障がい者に配慮した行動をとる人【問21】

### 【全体の状況】

5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(9.0%)と「ある程度増えたと思う」(37.1%)を合わせた《増えたと思う》は46.1%であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(5.0%)と「あまり増えていないと思う」(18.2%)を合わせた《増えていないと思う》は23.3%であった。(図表5-6-1)

図表5-6-1 障がい者に配慮した行動をとる人



### 【地域別の状況】

地域別にみると、《増えたと思う》は、全地域(44.3%~47.6%)でそれぞれ4割台であった。

一方、《増えていないと思う》は、横須賀三浦(13.9%)と県西(11.9%)を除く5地域(20.0%~27.8%)で2割以上であった。(図表5-6-2)

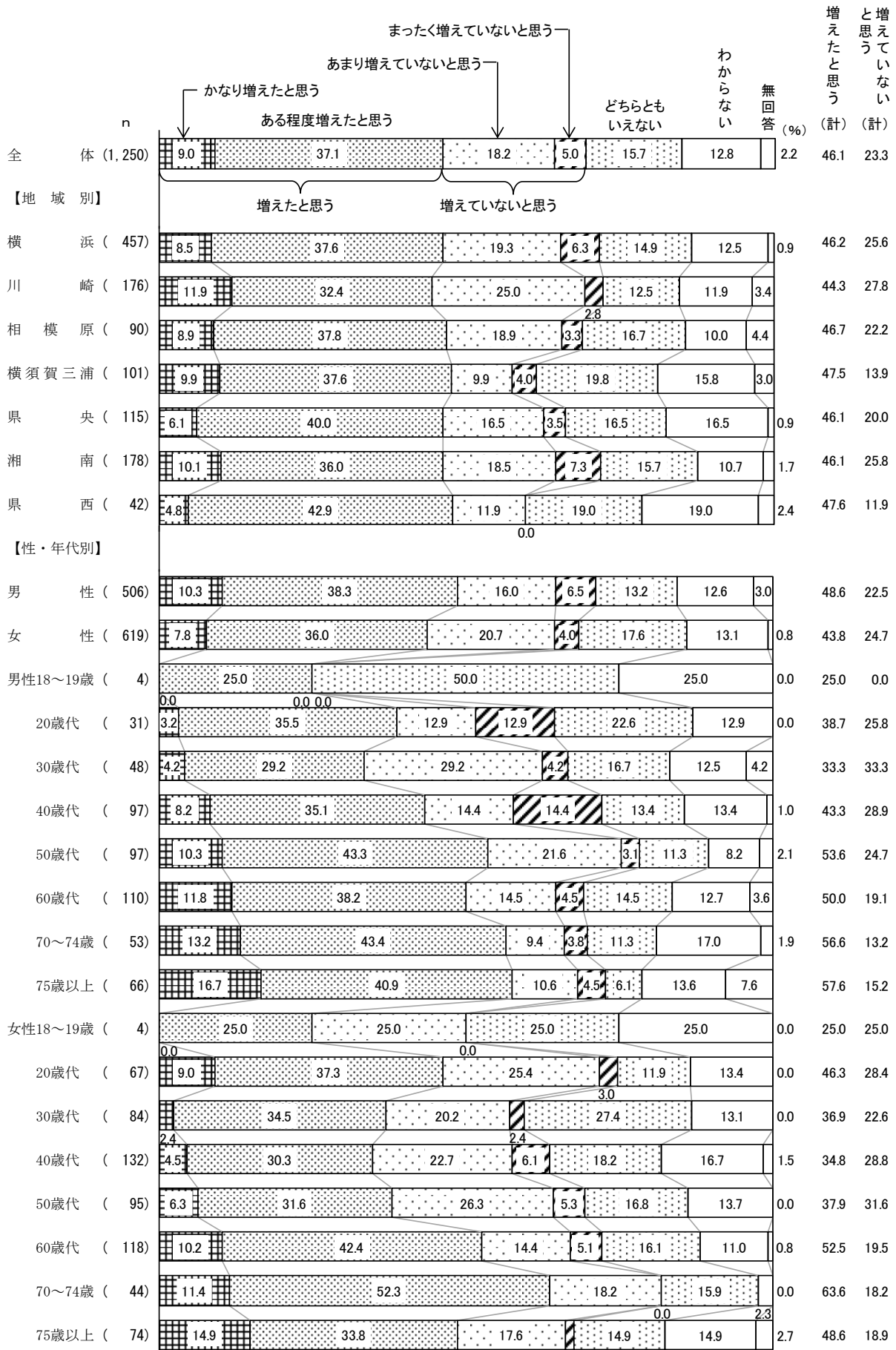
### 【性・年代別の状況】

性別にみると、《増えたと思う》は、男性(48.6%)が女性(43.8%)を4.8ポイントわずかに上回った。

性・年代別にみると、《増えたと思う》は、女性の70~74歳が63.6%で最も多く、次いで男性の75歳以上が57.6%となった。

一方、《増えていないと思う》は、男性の30歳代(33.3%)と女性の50歳代(31.6%)がともに3割を超えた。(図表5-6-2)

図表5-6-2 障がい者に配慮した行動をとる人—地域別、性・年代別



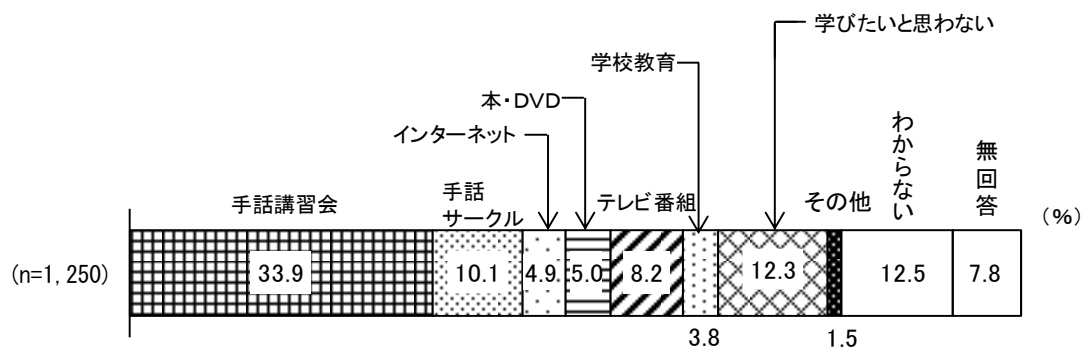
## 7 希望する手話の学習方法【問22】

### 【全体の状況】

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が33.9%で最も多く、次いで「手話サークル」が10.1%であった。また、「学びたいと思わない」は12.3%であった。

(図表5-7-1)

図表5-7-1 希望する手話の学習方法



### 【地域別の状況】

地域別にみると、「手話講習会」は、湘南が40.4%で最も多かった。また、「手話サークル」は、横浜が12.3%で最も多かった。(図表5-7-2)

### 【性・年代別の状況】

性別にみると、「手話講習会」は、女性(40.4%)が男性(26.9%)を13.5ポイント上回った。

性・年代別にみると、「手話講習会」は、女性の50歳代が49.5%で最も多く、次いで女性の40歳代が47.0%であった。また、「手話サークル」は、サンプル数の少ない女性の18~19歳を除くと、男女ともに20歳代(男性19.4%、女性19.4%)が最も多かった。(図表5-7-2)

図表5-7-2 希望する手話の学習方法—地域別、性・年代別

